【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第２区分
【発行日】令和5年4月14日(2023.4.14)

【公開番号】特開2023-42889(P2023-42889A)
【公開日】令和5年3月28日(2023.3.28)
【年通号数】公開公報(特許)2023-057
【出願番号】特願2021-150293(P2021-150293)
【国際特許分類】
Ａ６１Ｆ 13/49(2006.01)
Ａ６１Ｆ 13/51(2006.01)
Ａ６１Ｆ 13/532(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６１Ｆ 13/49 ３１２Ａ
Ａ６１Ｆ 13/51
Ａ６１Ｆ 13/532２１０

【手続補正書】
【提出日】令和5年4月6日(2023.4.6)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００５９
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００５９】
（平面ギャザー）
各サイドフラップＳＦには、糸ゴム等の細長状弾性部材からなるサイド弾性部材６４が前後方向ＬＤに沿って伸長された状態で固定されており、これにより各サイドフラップＳＦの脚周り部分が平面ギャザーとして構成されている。サイド弾性部材６４は、図示例のように、ギャザーシート６２の接合部分のうち接合始端近傍の幅方向外側において、ギャザーシート６２と液不透過性シート１１との間に設けるほか、サイドフラップＳＦにおける液不透過性シート１１と外装不織布１２との間に設けることもできる。サイド弾性部材６４は、図示例のように各側で複数本設ける他、各側に１本のみ設けることもできる。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００６９
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００６９】
また、連結部１３Ａがフック材の場合、ターゲットシート１２Ｔとして、フック材の係合突起が絡まるようなループ糸がプラスチックフィルムや不織布からなる基材の表面に多数設けられたものを用いることもできる。この具体例は、基材の少なくとも外面にループパイル繊維糸が縫い出された複合的なシート材である。このシート材は、基材の外面、すなわち使い捨ておむつの外面側には、ループパイル繊維糸が緯経方向に間隔を置いて突出され、基材の裏側（着用者側）には、パイル繊維糸が相互に組み合わされ、パイル繊維経糸の交差部列が形成されたものである。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００７８
【補正方法】変更

【補正の内容】
【００７８】
第１シート層７３及び第２シート層７４は、特に限定されず、例えば図１０及び図１１に示す例のように、エンドフラップＥＦを構成する他の部材（例えばトップシート３０及び液不透過性シート１１）を兼用することもできるが、図７～図９に示す例等のように、専用の第１シート層７３及び第２シート層７４を設けることもできる。すなわち、図１０及び図１１に示す例では、第１シート層７３は中間シート４０後部及びトップシート３０の後部となっており、第２シート層７４は、液不透過性シート１１の後部となっている。図示しないが、第１シート層７３は液不透過性シート１１の後部とし、第２シート層７４は外装不織布１２とする等、適宜の変更が可能である。一方、図７～図９に示す例等は、専用の第１シート層７３及び第２シート層７４の間にウエスト弾性フィルム７１が固定された伸縮シート７０を、エンドフラップＥＦに取り付けている。伸縮シート７０は、図７～図９に示す例等のように、トップシート３０と外装不織布１２との間における適宜の部材間（図示例はトップシート３０及び中間シート４０と液不透過性シート１１との間であるが、液不透過性シート１１と外装不織布１２との間でもよい）に挟むことができる他、図１３～図１５等に示す例のように、最も肌側に位置する最上層として取り付けることもできる。後者の場合、ギャザーシート６２を有する部分では、ギャザーシート６２よりも上側に伸縮シート７０を配置する（つまり全体が最上層となる）他、トップシート３０とギャザーシート６２との間に配置することもできる。専用の第１シート層７３及び第２シート層７４としては、各種の不織布を用いることができる。